

雑司が谷が発祥地！中国と日本の人形アニメーション創始者  
トキワ荘と同時代に、雑司が谷で活躍したアニメーション界の巨人と、教え子たち。  
戦後の日本と中国の文化の架け橋となった、忘れられてきたヒストリー。



# 持永只仁と、川本喜八郎

## 映画上映会 & シンポジウム



人形アニメーション作家  
ファンミン  
持永只仁 (中国名：方明)  
1919-1999

生誕100年  
没後20年

人気映画『ちびくろ・さんぼ』シリーズや『こぶとり』、そして今日でも海外で観られ、歌われている『赤鼻のトナカイ・ルドルフ物語』も、日本で持永只仁が製作していた。雑司が谷は、人形アニメーションの日本の発祥の地だった。

9/16 (月・祝)  
13:30 開場  
14:00 開演  
16:30 終了  
IKE・Biz 6F



人形美術家・  
人形アニメーション作家  
川本喜八郎  
1925-2010

持永氏から「技術」、チェコのトルンカ氏から「人形の本質」を学び、日本様式を採り入れて「執心と解脱」「鎮魂」などをテーマとした独特の人形アニメーションを創作し続け、海外でも称賛を受ける。人形美術家として、テレビ人形劇『三国志』と『平家物語』の人形たちも制作。

第一部：映画上映会  
14:00~15:05 (予定)

「いま蘇る！持永只仁と、川本喜八郎」 無料

道成寺



(1976年 川本喜八郎作品)  
「安珍清姫」伝説を映像化。川本の人形様式を確立した立体絵巻物。

ちびくろ・さんぼの  
とらいたいじ



(1956年 持永只仁作品)  
第1回バンクーバー国際映画祭児童映画部門最高賞。人形：川本喜八郎

こぶとり



(1958年 持永只仁作品)  
ミュージカル仕立ての作品で、代表作の一つ。人形：川本喜八郎

第二部：シンポジウム  
15:15~16:30 (予定)

『雑司が谷が発祥地！人形アニメの祖・持永只仁と、川本喜八郎。教え子たちへの系譜』 参加費：1,000円

〔基調講演〕 和田敏克氏 (アニメーション作家、東京造形大学准教授)  
〔パネリスト〕 和田敏克氏  
持永伯子氏 (持永只仁ご長女、日本アニメーション学会会員)  
細川晋氏 (アニメーション作家、東京工芸大学助教)  
●コーディネーター：壺岐國芳氏 (川本喜八郎研究者)

定員200名／自由席  
第一部、第二部ともに、申し込みフォームからご予約ください。  
第二部で参加の方は、当日受付にて参加費を現金でお支払いください。



申込みフォーム

●主催：NPO法人としまNPO推進協議会 ●協力：(有)川本プロダクション ●東アジア文化都市2019豊島パートナーシップ事業  
●協賛：養老乃瀧株式会社 渡邊建設株式会社 マテックス株式会社 日本自動ドア株式会社 (予定)

## 開催によせて



「ちびくろ・さんぼのとらたいじ」を演出する、故・持永只仁



「死者の書」を演出する、故・川本喜八郎

■海外の毎年のクリスマス時期にテレビで観られ、子どもたちを魅了し主題歌も有名な人形アニメーション映画の不朽の名作『赤鼻のトナカイ・ルドルフ物語』(1964年)が、持永只仁という人物によって日本で製作されていたことをご存知でしょうか。海外のストップモーション映画『ナイトメアー・ビフォア・クリスマス』(1993年)で有名な少年時代の**ティム・バートン監督**や、『犬ヶ島』(2018年)の**ウェス・アンダーソン監督**にも多大な影響を与えたその人物は、戦後10年を経た1955年、豊島区の**雑司が谷(現、南池袋2丁目)**に**日本初の人形アニメーション映画会社(人形映画製作所)**を設立し、田無へ移転するまでの約7年間に9本の自主作品と米国映画を製作し、作品クオリティーの高さで世界を驚かせました。その映画スタジオは、現在の豊島区新庁舎から徒歩2分の場所に存在したのです。

■持永只仁氏は、戦時中は国内で**瀬尾光世監督**(注1)のもとでセル画アニメの歴史的な作品の『アリチャン』『桃太郎の海鷲』等の製作(注2)に関わり、実質上の初監督作として『フクちゃんの潜水艦』も製作。その後、健康を害し、静養のため「満州」へ渡航したところ、請われて**満州映画協会**に入社。しかし、わずか2ヶ月で終戦。以降8年間、家族とともに**中国に残留**し、新生中国の人々にセル画アニメーション技術と、独自に開発した人形アニメーションの技術を教え、上海にアニメスタジオを設立し多くの映画人を育てました。中国の映画関係者たちは持永只仁のことを忘れず、貢献を称え「持永只仁賞」「持

永只仁奨学金」も存在します。

(注1) 瀬尾監督の『桃太郎海神の神兵』は、それを観た若き**手塚治虫氏**に「おれも漫画映画をつくるぞ」(手塚治虫自伝より)と大きな影響を与えたことでも知られています。

(注2) 持永只仁は、日本で初めて4段マルチプレーン撮影台を開発し、作品『アリチャン』(1941)でフルに活用。この効果は今日の撮影の基本的な技術として活用されています。

■戦後8年を経て持永氏は、1953年に日本へ帰国すると**川本喜八郎氏**(1925～2010年)に人形アニメーションの技術を伝え、以降も故・**岡本忠成氏**(1932～1990年)や**眞賀里文子氏**をはじめとして多くの教え子を育てた偉大な教育者でもありました。川本喜八郎氏はその後チェコへ武者修行的に留学し、巨匠**トルンカ**に師事して人形の本質に開眼。以降、日本の伝統様式を採り入れた独自の人形芸術を創造し続けます。そのチェコ留学当時のアニメーションの基礎技術は、持永只仁氏が独自に開発して川本氏へ伝授したものでした。今日の日本のアニメーション発展の基には、功績を誇らず、国籍を越えて分け隔てなく、惜しみなく技術と精神を伝えた持永只仁という人物の存在があったのです。

■当シンポジウムは、**日中の人形アニメーションの生みの親で両国の文化の架け橋**となった持永只仁氏が、雑司が谷の地で世界的な人形アニメーションを製作していたことを確認し、教え子の系譜を振り返り、今後のアニメーションの発展に寄与したいと願い、開催するものです。

## ●特別展示：持永只仁作品に登場した人形数体を展示予定！

**懇親会 17:00～18:30 (立食パーティ形式 ●参加費：2,000円)**

映画上映会&パネルディスカッションと同じ会場でパネリスト、関係者の皆様との交流を深めます。どなたでも参加可。当日ご来場時に受付いたします。ぜひご参加ください。

### お申し込み

●お申し込みフォーム：としま NPO 推進協議会ホームページの、「持永只仁と川本喜八郎 映画上映会&シンポジウム」特設ページ内にある「申し込みフォーム」ボタンをクリックして、申し込みフォームからお申し込みください。

●Eメール：タイトルに、「人形アニメチケット申し込み」とご入力の上、本文に①お名前 ②申し込み枚数 ③連絡先メールアドレスを、下記あてに送信してください。

**en@toshima-npo.org**

### としま産業振興プラザ (IKE・Biz)6F 多目的ホール

東京都豊島区西池袋 2-37-4

### アクセス

JR、東武、西武、東京メトロ各線池袋駅西口より徒歩5分  
JR 池袋駅メトロポリタン口より徒歩3分

